

平成 23 年 9 月 28 日 (木)

(株) ライフデザイン研究所 取締役 蒲 幸恵

9 月 16 日 (木) ~22 日 (木) でベトナム、カンボジア視察に行つて参りました。
皆さまに簡単ですが、レポートにてご報告いたします。ご一読いただければ幸いです。

視察先は日本から飛行機で約 5 時間。時差は 2 時間。気候は雨季と乾季があり、9 月は雨季です。気温は 32 度程度で日本の夏くらいです。(乾期には 40 度超えもあるようです。)

公用語はベトナム語やカンボジアはクメール語ですが、英語ができればほぼ言葉の問題はありません。日本系外資系企業、起業する経営者達とも沢山お目にかかり人脈もつくることができました。活かしていくのはこれからですが、いただいたご縁は大切にし、心から感謝します。

このレポートは、その方々からお話をお聞きし、現地で感じたことをまとめさせていただきました。

今回の出張の目的は、

実際に現地で創業している経営者、会社訪問、現地人脈をつくること。また「発展する国の原動力を感じる」こと。ベトナムの素形(原点)を確かめ今後のビジネスにつなげる視察でした。日本や私たちはベトナムやカンボジアとどう関われるのか?をまずは現地で感じてくることでした。

実際視察に行きまして、ベトナム、カンボジアに強い可能性と市場があると感じました。

人口の平均年齢が 30 歳以下である点、鉄道インフラの整備に積極的、中国より安い豊富な労働力、豊富な地下資源、農作物が育つ気候、人々の器用さ勤勉さ。また発展途上国という言葉は死語であり、自分が思っていた以上にインフラも街も人も発展、成長していました。そこで生活水準をどんどんあげている現在進行形の国を目の当たりにしました。

今までベトナムやカンボジアは先進国から施しを受けてきましたが、今後は自分たちの力をもって先進国へ向かおうとしています。国民全員が「自立的行動」をすることでできれば、それが新興国の力になるし逆に壁にもなってくるでしょう。彼らは、将来に希望と夢とお金に対する意欲欲求を持っています。国民の意欲が原動力となり、自立的行動をし、先進国を追いかけることにそう時間はかからないように思います。まさに日本の昭和 30 年代の勢い。映画 ALWAYS 三丁目の夕日のような光景が、頭の中で思い浮かび勢いを肌でどんどん感じました。

日本が戦後、発展した高度成長時代よりスピードが早い。それはネット等の情報環境、携帯電話、メディアの充実。そして経済発展が先に進んでいる国から恩恵を受け、スピードアップできる要素が多いです。ここ 5 年~10 年くらい面白いビジネスチャンスがあると私は思いました。

彼らのバイタリティやそのスピードに私たち日本そして日本人は負けてはならないと感じます。そう感じた時に何を自分がすべきかを考え行動に移すことのスピードと質が求められ時代になったと思います。

首都のインフラの整備はほぼできています。ただ電力供給は、停電も多く電線に乱れがあり、災害がおきたら一発ショートすると思いますが、自家発電も常備されている企業も多いです。国としても経済特区など、外資の受け入れ体制に力をいれており、日本のみならず韓国、中国、アセアン地区の企業がどんどん入ってくる点とその国内に市場がある点も経済発展があるとみています。

日本の中小企業でもグローバル競争の中にいますから、戦略を練り社運をかけ戦いにでてくる企業は今後増えるのではないかと感じました。ベトナムにおいては主要な日本の大手企業等は進出済みです。こういった勢いのある国々では、日本国内より 2 倍いや 3 倍程度の物事が進むスピードが速い。なぜなら決定権の速さが勝因を分けるからです。その点で、韓国企業や中国の勢いと決断力は早く、多くのビジネスチャンスをつかんでいる実態を目にしました。やはりスピード=決断力がビジネスでは大事であります。そして、ビジネスを考える上では、政府とのつながりが必須です。そのための人脈を仕事の中で探し、関係を深くしていくことが求められます。

次にサービスの質や教育という視点からみてみましょう。日本のおもてなしの心やソフト面での介入にビジネスチャンスありと感じました。航空会社のサービスからローカルなお店まで、まだまだサービスの質やレベルは低いです。日本の接遇は世界に誇れるものだと思います。

教育に関しては、ベトナムの教育は日本企業も KUMON など入り込み今後教育が進んでいくでしょう。

カンボジアは、算数能力が低く、まずほとんどの方が、計算が苦手。お聞きしますと、学校で習う掛算割り算などが非常に複雑な計算をするそうです。日本式を広めていくチャンスが教育現場にも多くみられました。若い国ですので、国策として教育に力をいれてくることも間違いのないでしょう。

若者の多くは 20 代前半で結婚し、子供を産み育て、家族として生活します。ベトナム人は結婚したら家族で過ごす時間を増やすので、結婚後休みを増やし福利厚生を充実させること。つまり稼ぎより休みです。時給の差というよりも福利厚生の実感という点で就職判断するようです。また特徴としては手先が器用で、教えたことは完璧にやる（教育をしっかりすれば中国人よりも扱いやすいとの情報あり）カンボジアでも同じような傾向があります。

<皆さまの参考までに>

■ベトナム（ホーチミン）

人口 600 万人～800 万人。全人口が約 9000 万人。その 1 割が在住するベトナムで一番の商業都市車の数より、バイクの数が多く、新号や横断歩道はほぼなくローカルルールで運転している様子。政府の規制作りはこれからどんどん始まっていくのではないかと思います。



外資では韓国企業が一番進出してきており、次に中国。日本は大きく遅れをとっています。最低賃金は月額 12000 円程度ですが、資本家と外資系企業の経営者、そして華僑等で構成されるスーパーリッチ層（年収 1 億円以上）に次いで、外資系企業のホワイトカラーを中心に構成されるアップーミドル層（年収 400 万円～600 万円、世帯収入 600 万円～800 万円）に向けた食・位・住の市場ができてきています。日本で行われているサービスはほとんどそろっており、今後は、そのサービスの品質を高めて行くことが求められており、そこに日本から移住している起業家はチャンスを見出しているようです。

また、人口の平均年齢が 30 歳未満（男女比率女 55：男 45）です。

携帯（スマートフォン）・パソコン・バイクへの購買意欲は突出して旺盛であり、結果、それらは日本とほぼ同額。また、日本人向けの食ビジネスの物価も、ほぼ日本と同額です。それ以外の現地の人が利用するサービスの市場価格は日本の 20%～25%の物価水準だと思います。中国上海よりも貧富の差が激しい印象がありました。

web 環境についてホーチミン市内はほぼ整備されています。電力供給は、かなり整備はされていますが、電線など配線がぐちゃぐちゃで災害等が起きれば一気にライフラインはショートの可能性あり。停電が起きますが、自家発電のホテル等が多い。停電は日常茶飯事。

また、市中に流れている海外メディアも韓国勢が圧倒的に握っています。K-POP のアイドルの名前は多くの若者が知っていますが、日本のアイドルの名前はほとんど知られていません。韓国の国策がいろんな場面でみえたベトナムでした。



バイク（125cc）の新車は日本円で 40 万円。バイク、車の輸入は 140%の関税がかかります。

■ホーチミンの若者がほしいもの

第一位 バイク

第二位 車

第三位 携帯や家電製品（洗濯機等）

■街の本屋では万引き防止の為、入口の受付でカバンを預けるロッカーがある

スーパーも万引き防止のカバンを預ける場所があるが、外国人（特に日本人）は必要ない場合が多い。



■ベトナム 3 大スポーツ

1 位 サッカー（ダントツ）

2 位 ボーリング

3 位 ビリヤード

野球は全く人気なし。。 cf)カンボジアもサッカーが一番人気

公園での集まりもサッカーやボーイズカールズスカウトがはやっている。

子供の数が半端なく蟻のように休日は公園に集まる（それくらい国民に余裕ができた）

ベトナムの食事は、山羊の肉の炒め物、生春巻、フォー、サイゴンビール、333 ビール（バーバーバー）

ベトナム料理はどれも口に合いおいしい！！

ちなみにカンボジアの料理は、野菜がおいしくアジアンテイスト。体にやさしい印象で、いただいたお料理はおいしかったです。



続いて、

■カンボジア（プノンペン）

人口 140 万人。全人口が 1400 万人。その 1 割が在住するカンボジアの首都であり一番の商業都市です。外資では中国企業が一番進出してきており、主な企業の支配層はほとんど華僑と王国軍（カンボジアは王国なので、国が保有する軍隊があります）の関係者が握っています。しかし、ベトナムが社会主義国家であるのに対し、カンボジアはそうではないので（資本主義でもなく、軍国主義でもありません、黎明期だと思います）



最低賃金は月額 61 ドル（約 5000 円）程度ですが、華僑と軍関係者で構成されるスーパーリッチ層（年収不明）を中心に、高級品市場が構築されています。

また、月額 2 万円～10 万円程度の賃金層をターゲットにした、ショッピングセンターやスーパーマーケットも数件あり、今後の市場の成長が見込まれます。中堅、富裕層向けのマーケットに視察し、ほぼ物の品質は日本並みで驚きました。衛生管理もかなりしっかりしています。

プノンペンでも同じく、日本で行われているサービスはほとんどそろっており、今後は、そのサービスの品質を上げて行くことが求められています。

プノンペンには経済特区がいくつかできてきています。私たちもそのうちの 1 つを訪問しました。360ha（360 万平米）の経済特区の過半数以上が日本企業であり、今後の日本企業の活躍が期待されます。建

貸しの工場も建設されており、中小企業の進出の可能性もあると思いました。

カンボジアからの輸出を促進するために、特惠関税制度が整備されており、カンボジアから日本への輸出品のほとんどには関税が課税されません。その分中国などからよりも有利に輸入ができます。

私たちは、ベトナム空港よりカンボジアプノンペンへベトナムからプロペラ機で移動。(約 35 分程度で到着)カンボジア到着後、プノンペン経済特区を視察、美容室、製水工場、縫製工場、印刷工場、車整備工場を視察。美白に対するカンボジア女性の興味は高い。



高級美容室にて

プノンペン市内流通視察 (sotya, Central Market 等)

ショッピングセンターのものは完璧にそろっています。衛生面もきちんと管理されている。

ここはカンボジアかと驚きました。もちろんローカルな部分を見れば、まだまだ貧困の差も激しい。



日本のNGOが運営する日本語学校を訪問

日本語を学んでも就職先がないというカンボジアの現状に韓国語、中国語に人気が高まる傾向もあり。

カンボジア 9月21日の17:00頃出発し、ベトナムトランジッタ 空港で約3時間待ち(12時まで食事や買い物、ネット環境あり)ベトナム空港は24時間空港。現地時間12:10出発 9月22日

日本時間7:30日本へ帰国

完